

事業名：3 資源回復技術開発試験

期間：H25～H28 年度

予算額：H28 年度 2,879 千円

担当：増殖推進室（門脇 慧史）

目的：

平成 18 年にイワガキ資源回復計画、及び平成 22 年にバイ資源回復計画が策定され、県下で資源回復の取り組みが行われている。これらの取り組みを支援するため、資源状況の把握、及び資源増殖を目的に市場調査、経過観察調査、幼生調査、産卵期設置情報の提供を行った。また、平成 27 年 9 月に設置されたナマコ増殖礁の効果の把握を目的に増殖礁効果調査を行った。

成果の要約：

1) 調査内容

(1) 市場調査（イワガキ、バイ）

平成 28 年 6 月から 8 月までの計 4 回、浦富、賀露、酒津、浜村、夏泊、青谷、又は泊で水揚げされたイワガキの殻高の測定を行った。また、平成 28 年 4 月、及び 9 月の計 2 回、賀露、酒津、浜村、夏泊、泊で水揚げされたバイの殻長の測定を行った。

(2) 経過観察調査（イワガキ：水産基盤整備事業）

平成 28 年 7 月から 8 月に浜村地区、青谷地区、淀江地区、及び田後地区の計 4 地区でイワガキ礁の埋没状況、イワガキの付着状況（密度、殻高等）、及び食害状況（レイシガイの有無等）について潜水目視で観察を行った。

(3) 幼生調査（イワガキ）

平成 28 年 8 月から 12 月までの計 12 回、泊港沖合防波堤内側の水深 10m 地点で、北原式プランクトンネットを用いて海底面から表層への垂直曳きを行った。その後、顕微鏡を用いてイワガキ様二枚貝浮遊幼生の計数を行った。また、同時期に同地点の水深 9m 付近で採苗器（ホタテ殻 10 枚）を 1 週間程度浸漬した。その後、顕微鏡を用いて付着したイワガキ様二枚貝稚貝の計数を行った。

(4) 産卵器設置情報の提供（バイ）

平成 28 年 5 月（上旬、中旬、下旬）の水温、及び潮汐の状況からバイの産卵時期の推定を行った。

(5) 増殖礁効果調査（ナマコ）

平成 28 年 10 月 17 日、境港外側防波堤内側の水深 5 から 6m 地点に設置されたナマコ増殖礁（シェルナース）2 基で行った。シェルナース内部のカキ殻を全て取り出し、カキ殻に付着した稚ナマコの有

無の確認を行った。

2) 結果の概要

(1) 市場調査（イワガキ、バイ）

イワガキの殻高、及びバイの殻長データの集積を行った。

(2) 経過観察調査（イワガキ）

イワガキ礁の埋没状況、イワガキの付着状況、及び食害状況の把握を行い、調査結果としてまとめた。一部の地区でイワガキ礁の埋没、イワガキの低密度付着、及びレイシガイによる食害が確認された。

(3) 幼生調査（イワガキ）

10 月 18 日に最大 301 個体のイワガキ様二枚貝浮遊幼生が確認された。また、10 月 4 日から 11 日に浸漬した採苗器で最大 411 個体のイワガキ様二枚貝稚貝の付着が確認された。

(4) 産卵器設置情報の提供（バイ）

今年は、6 月 18 日から 21 日、及び 7 月 3 日から 5 日がバイの産卵時期と推定された。

成果の活用：

(2) 経過観察調査（イワガキ）

西部日本海ブロック増養殖担当者会議、平成 28 年度豊かな海づくりに関する現地研修会（※1）、及び平成 28 年度アワビ・サザエ等栽培漁業検討会で報告を行った。

鳥取県漁業協同組合浜村支所、青谷支所、淀江支所、及び田後漁業協同組合へ調査結果の情報提供を行った。

(4) 産卵器設置情報の提供（バイ）

「バイ産卵器設置情報」として取りまとめ、県内沿岸漁業協働組合へ情報提供、及び HP に掲載を行った。

(5) 増殖礁効果調査（ナマコ）

鳥取県漁業協同組合へ調査結果の情報提供を行った。

関連資料・報告書：

※1 豊かな海 No42.